

## 自己評価報告書(最終報告)

報告者

自然系コース(数学)  
／佐伯 昭彦

## ■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

## I. 学長の定める重点目標

## I-1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれていることが必要である。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

## 1. 目標・計画

在職してから2年間、本学の目標を達成するために下記の目標・計画を実施してきた結果、授業評価アンケートでは、どの教科も総合評価が4.0以上の結果が得られている。従って、本年度もこれらの目標・計画を継続して実施する。

- ①授業内容については、理論、学習指導要領、学校現場での教育実践との関わりを重視した内容を取り入れる。
- ②授業方法については、上記の内容に関わる講義を基に、学生同士の発表・討論を取り入れた学生の主体的な参加型の授業を行う。
- ③成績評価については、定期テストだけでなく、学生同士の発表・討議における参加態度、発表内容、提出物などを取り入れた評価を行う。そのために、授業初めに、成績の評価基準と到達度目標を明示する。

## 2. 点検・評価

- ①学部「算数」では、数学に関する理論、学習指導要領、学校現場での教育実践との関わりを重視した内容を取り入れた。
- ②学部「数学科教材論」と大学院「数学科教育研究」では、学生同士の発表・討論を中心とした学生の主体的な参加型の授業を行った。また、大学院「数学科教育学演習」では、第5回東アジア数学教育国際会議で実施された4つの研究授業について、学生同士が研究授業を分析し、改善し、模擬授業を行う、学生主体的な参加型の授業を行った。
- ③成績評価については、定期テストだけでなく、学生同士の発表・討議における参加態度、発表内容、提出物などを取り入れた評価を行った。その結果、どの授業においても総合評価が4.0以上の結果が得られた。

## II. 分野別

## II-1. 教育・学生生活支援

## 1. 目標・計画

- ①授業時では演習課題を積極的に取り入れ、学生同士によるコミュニケーション活動や探究活動等を通して、学生の主体的な学習を促すことにより、教育実践力に優れた教員を養成することに貢献したい。
- ②授業中の演習課題、レポート、小テストを基に、学生の理解状態を把握し、授業内容・授業方法の改善を図る。
- ③学生及び院生の進路や悩み等の相談に応じる。

## 2. 点検・評価

- ①教育実践力に優れた教員を養成することを目標に、授業時では、演習課題を積極的に取り入れ、学生同士によるコミュニケーション活動や探究活動等を通して、学生の主体的な学習を促した。
- ②授業中の演習課題、レポート、小テストを基に、学生の理解状態を把握し、授業内容・授業方法の改善を図った。
- ③担任である学部2年生に対しては、「学修キャリアノート」による面談と2年次合宿研修を通して、修学状況や普段の生活状況を把握するとともに、今後の学生生活に対する助言を行った。また、卒研ゼミ生(1名)及び大学院ゼミ生(3名)に対しては、進路や悩み等の相談に応じた。その結果、正規採用2名(卒研ゼミ生:1名)、臨時採用2名(大学院ゼミ生:3名)の全員が平成24年度から教職に就くことになった。

## II-2. 研究

### 1. 目標・計画

- ①従来からの研究テーマ「数学的活動におけるテクノロジー活用」と「数学的モデリング」をまとめ、全国学会誌に投稿する。
- ②上記①の研究を発展させて、小学校、中学校、高等学校を通じて児童・生徒が確かな知識・技術を継続的に習得できる教材開発の研究を行い、学会発表を行う。
- ③現職の算数・数学科担当教員の協力を得て、学習指導法に関する共同研究を行う。
- ④科学研究費補助金による研究目的を達成するために、共同研究者と連絡を取り合って研究を進める。

## 2. 点検・評価

- ①平成23年7月にメルボルンで開催された数学的モデリング関係の国際会議(ICTMA15)で研究成果を2本発表した。
- ②ICTMA15で発表した内容を基に、小学校、中学校、高等学校を通じて児童・生徒が確かな知識・技術を継続的に習得できる教材開発し実践する予定であり、本年度は東京都と埼玉県の小学校で実践を行った。特に、平成24年7月に韓国で開催される第12回数学教育世界会議(ICME12)に、東京都で実践した成果を投稿した結果、発表が受理された。
- ③上記②で実践した授業は、川上貴教諭(聖徳学園小学校)と共に開発した。さらに、基盤研究(C)(研究代表:佐伯昭彦)で取り組んでいる実践は、末廣聡教諭(岡山県立備前緑陽高等学校)と共に開発した。
- ④科学研究費補助金は2件の基盤研究(C)(研究代表:佐伯昭彦、研究代表:廣瀬隆司)が継続中である。平成24年度の申請は、研究分担として2件(基盤研究(B),基盤研究(C))を申請した結果、基盤研究(C)(研究代表者:柳本哲)が採択の内定を受けた。

## II-3. 大学運営

### 1. 目標・計画

- ①担当する委員会の委員として、本学の運営に貢献する。

## 2. 点検・評価

- 「学部教務委員会」、「エコアクション21運営委員会」、「学部・大学院FD検討専門部会」の委員としての任務を遂行した。

## Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

### 1. 目標・計画

- ①附属小学校・中学校の算数・数学担当教員と連絡を取り合い, 研究活動及び児童・生徒の指導方法についての意見交換を行う。(附属学校)
- ②公立学校, 地域社会等の連携を積極的に行い, 社会に貢献する。(社会との貢献)
- ③JICA等の国際協力事業に貢献する。(国際交流)

### 2. 点検・評価

- ①附属小学校・中学校の算数・数学担当教員と連絡を取り合い, 研究活動及び児童・生徒の指導方法についての意見交換を行った。また, 附属小学校が開催した第58回小学校教育研究会と合同会議(2回), 及び, 附属中学校が開催した第55回中学校教育研究発表会に参加し, 研究協議内容についての意見を述べた。附属中学校が文部科学省の指定を受けている平成23年度教育課程研究指定校事業の研究活動に協力し, 教材開発及び授業後の研究協議で助言を与えた。(附属学校)
- ②8月7日に社団法人徳島県教育会が主催する「徳島わくわく算数教室」に講師として参加した。コースで開講した本学大学開放推進事業「算数おもしろ教室」で講師を務め, 幼稚園年長組から小学校6年生までの約30名を対象に「タングラム」を使った授業を行い, 社会に貢献した。(社会との貢献)
- ③ JICA等の国際協力事業として, 大洋州地域研修に指導教員として貢献した。(国際交流)

## Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

- ①平成22-23年度文部科学省先導的・大学改革推進委託事業「教科専門と教科教育を架橋する教育研究領域に関する調査研究」の構成員として, 「算数・数学科」の試行授業の講師(5月31日実施)を担当した。
- ②平成23年度鳴門教育大学教員免許更新講習の講師(9月4日実施)を担当した。
- ③附属中学校でのLF事業で講師(1月19日実施)を担当した。
- ④埼玉県蕨市立塚越小学校が1月30日に開催した「数学的モデリング研究授業・協議会」に参加し, 埼玉大学の松崎昭雄准教授が実施した研究授業の指導助言を行った。
- ⑤埼玉県蕨市立東小学校が2月21日に開催した「数学的モデリング研究授業・協議会」において, 6年1組と6年2組を対象とした研究授業の講師を担当した。